

2006年

中国総合

震災や感染症対策急務

広島県議会 特別委 専門家3人が提言

広島県議会は7日、二つの特別委員会に計三人の学識経験者を参考人として招いた。環境・安全・危機管理対策特別委員会では、広島大学工学部研究科の園村誠助教と県立広島病院総合診療科の桑原正雄部長、平和貢献・文化・スポーツ対



奥村誠さん



桑原正雄さん



野田弘志さん

【園村助教】県は、県内で震度6強以上の地震が起きるケースを四つ想定している。厳密な被災地域の助け合いを呼び掛ける責務もある。
【桑原部長】新型インフルエンザ対策では、正確で迅速な診断や、感染拡大の拡大遮断などが欠かせない。県内には、感染症の専門家や専門施設が不足している。配置や整備が急務だ。
【野田名譽教授】ロシアのエルミタージュ美術館の作品を広島市内で定期的に展示し、研究できる場を創設し、研究者や美術家の拠点になり得る。人間の精神性を追求する場は、平和を求める真にふさわしい。今こそ具体化すべきだ。(守田 廣)

中国新聞 広島版

2006年(平成18年)2月8日

2011年

県医療再生計画を提出

県は、県内の医療の課題を解決するための新しい「県地域医療再生計画」の案をまとめ、国に提出した。

2013年度まで13事業

朝日

計画期間は2013年度までの3年間。「基本プラン」として、国からの基金15億円を含む総額19億円を使って、13事業を手がける。目玉の一つは、県内の医療機関が、患者の電子カルテを相互に見られる情報ネットワークの整備。10までに運用開始を目指す。ネットワークを生かした診療例はこうだ。総合病院で手術し、が退院し、近所のかかり医に診てもらった場合、かかりが総合病院に入院中の結果や容体の経過など

(中国新聞 平成23年7月2日)

電子カルテ情報網整備／「広島版CCDC」...

「計画期間は2013年度までの3年間。『基本プラン』として、国からの基金15億円を含む総額19億円を使って、13事業を手がける。目玉の一つは、県内の医療機関が、患者の電子カルテを相互に見られる情報ネットワークの整備。10までに運用開始を目指す。ネットワークを生かした診療例はこうだ。総合病院で手術し、が退院し、近所のかかり医に診てもらった場合、かかりが総合病院に入院中の結果や容体の経過など」

◆県新地域医療再生計画(基本プラン)の概要

- ・ドクターヘリの導入
- ・中山間地域の診療を支援するため、広島大学院生らを派遣
- ・医療機器を載せた診療車で無医地区を巡回
- ・医療資源や患者の状況を調べ、診療科や地域の医師偏在の解消を目指す
- ・心不全と脳卒中の地域リハビリテーション支援を強化
- ・医療と介護が連携したケアのモデル事業などを実施
- ・県内全域で電子カルテが見られる情報基盤を整備
- ・県内の感染症対策の「司令塔」となるセンターを整備

県内の感染症対策の「司令塔」となるセンターを整備

版「CCDC」と呼ばれるセンターの構想だ。感染症を始めとする病気が、県内でのように流行しているのかを把握し、地域の実情に応じた対策を練る司令塔の役割を果たす。米国の「疾病対策センター」(CDC)にならった。「国主導だった感染症対策だが、感染症の広がり具合は地域差があることを踏まえ、広島の実情に応じた対策を講じる必要がある」と、県健康対策課。食事や運動、喫煙などの県民の生活の傾向を、センターやほかの研究機関が分析。糖尿病などの生活習慣病の予防にもつながる。このほか、災害や感染症

感染症センター設置へ

広島県、情報収集・対策の司令塔に

13年4月めど人材育成も

広島県は2013年4月をめどに、新型インフルエンザなど感染症対策の拠点となる県感染症・疾病管理センター（仮称）を設置する。国内外の発生情報の収集や医療機関の連携、医療スタッフの人材育成などを担う。設置場所は今後決める。県によると、感染症に特化した拠点施設を都道府県が整備するのは珍しいという。県によると、09年の新型インフルエンザ流行時、国からの大量の情報をもとに医療現場に発信できなかったことが課題として浮き彫りになった。行政と医療機関、大学との情報連絡体制も不十分だったこととして設置を決めた。

センターの機能は、県内での感染症発生情報の一元的管理▽専門の医療スタッフの派遣▽医療機関との情報共有システムづくりなどを想定。大学教授や医師たちでつくる専門

家委員会が業務内容や運営体制を検討し、提言する。

センター設置は国の交付金を原資にした県

新地域医療再生計画の施策の一つ。総事業費は1億7800万円を見込んでいる。

(馬上稔子)

(中国新聞
2011年12月2日)

●総事業費 177,552千円 (うち、地域医療再生基金 153,552千円)

●スケジュール

H23年度	H24	H25
整備検討委員会		センター運営
	施設整備	サーベイランス体制整備

広島県感染症・疾病管理センター(仮称)検討委員会

所 属	役 職 名	氏 名
広島県地域保健対策協議会	健康危機管理対策専門委員会委員長 (県立広島病院院長)	桑原正雄
	健康危機管理対策専門委員会前委員長 (広島市医師会運営安芸市民病院前院長)	横山隆
広島県医師会	感染症対策委員会委員長 (新田医院院長)	新田康郎
	常任理事 (堀江医院院長)	堀江正憲
	常任理事 (広島市民病院副院長)	荒木康之
	常任理事 (広島市医師会運営安芸市民病院副院長)	柳田実郎
第一種感染症指定医療機関 (広島大学病院)	感染症科教授	大毛宏喜
	検査部准教授	横崎典哉
第二種感染症指定医療機関 (広島市立舟入病院)	院 長	市川 徹
第二種感染症指定医療機関 (福山市民病院)	医療技術部長	下江俊成

所 属	役 職 名	氏 名
広島大学大学院 医歯薬学総合研究科	細菌学教授	菅井基行
	ウイルス学教授	坂口剛正
	疫学・疾病制御学教授	田中純子
広島検疫所	所 長	中島尚子
広島市保健所	所 長	臺丸尚子
呉市保健所	所 長	内藤雅夫
福山市保健所	所 長	村尾正治
広島県保健所長会	会 長 (県西部保健所長)	近末文彦
県立総合技術研究所 保健環境センター	センター長	伊藤 俊
危機管理監	危機管理監	本瓦 靖
総務局	広報総括監	樫野孝人
健康福祉局	局 長	佐々木昌弘

〔敬称略〕 (2011年)